

## 第9回 秩父広域市町村圏組合水道事業経営審議会 会議録

会議名	第9回秩父広域市町村圏組合水道事業経営審議会	
日時	令和2年12月18日（金） 14:30～15:30	
場所	秩父クリーンセンター3階 大会議室	
次第	第9回秩父広域市町村圏組合水道事業経営審議会 1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 (1) 前回までの振り返り (2) 答申から料金統一までの経過について 4 会長より感想 5 水道局長あいさつ 6 閉会	
資料	・ 次第 ・ 資料1「前回までの振り返り」 ・ 資料2「答申から料金統一までの経過について」	
出席者	審議会	※別紙名簿のとおり
	事務局 (組合)	柴岡康夫（水道局長）、古屋敷光芳（次長兼経営企画課長）、 八木修（経営企画課主席主幹）、小室智史（経営企画課主査）、 引間健一郎（経営企画課主査）、栗島俊（経営企画課主任）、 青葉楓（経営企画課主事補）、島田知香（経営企画課主事補）
会長	（事務局の司会により、次第のとおり行われる。） （会長から挨拶が行われる。）  こんにちは。コロナもありまして、昨年12月を最後に開催したぶりでおよそ1年ぶりの審議会となります。この間いろいろな議論がありましたが、そうした審議会後の経緯についてご報告をいただけるということでございます。それについてのご意見、また今後の社会について皆さんからのご意見を頂戴したいと思います。どうぞよろしく願いいたします。  （事務局より配布資料の確認が行われる。）	

事務局	<p>資料の確認が終わりましたので、これより会長に議長として進行をお願いいたします。</p> <p>(会長により議事が進行する。)</p>
会長	<p>議事に入る前に、今回の審議会会議録署名人の確認をさせていただきます。会議録署名人は、強谷隆彦委員と、加藤芳男委員にお願いしたいと存じます。よろしくをお願いいたします。今回の審議会につきましては、通知でもお知らせしました通り、公開としての扱いとさせていただきます。傍聴者の方につきましては、掲示してあります傍聴要領に従っていただくとともに、会場内においての発言等は厳に慎んでいただきたいと存じます。ご協力よろしくをお願いいたします。また、本日記者の方が傍聴されておりますことをご了承ください。</p> <p>((1)「前回までの振り返り」について説明) ((2)「答申から料金統一までの経過」について説明)</p>
会長	<p>委員の皆さま何かご質問ありますでしょうか。</p> <p>(なし)</p> <p>それでは、委員の皆さま他にご意見はございますか。</p>
委員	<p>はい。</p>
会長	<p>お願いいたします。</p>
委員	<p>こちら最後に次回の料金見直しについてご意見させていただきます。今回に審議会については基本計画のいわゆる総額の投資について一切審議できないというストレスの溜まる審議会でした。結果、総括原価方式ということを考えれば、このような答申に至るわけですが。基本的に次回からは基本計画の見直しを行う、そこで事業の総額の検討をしたうえでやっていかないと、原価が決まったものを審議するのは審議ではなくこれは説明会だと思います。この辺が重要で、要するに審議会をする前にまずは住民の意見を聞きながら審議会にも意見を反映させるとか、後での説明会やパブリックコメントでは住民の意見を審議会の中に反映できないものとなってしまいます。次回の審議会の運営については実施</p>

<p>会長</p>	<p>していただきたいと思います。以上です。</p> <p>ありがとうございます。その他何かございますでしょうか。</p> <p>(なし)</p> <p>ないようであれば議事については以上となりますが、よろしいでしょうか。</p> <p>議事進行につきましてご協力ありがとうございました。ということで事務局にお返ししたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>会長、また委員の皆さまにはおかれましては、長時間にわたり、お疲れ様でございました。また任期によりまして、今回がこの審議会の最終回となりますことから、会長よりご感想を頂戴したいと存じますが、よろしく願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>ここで任期が終わりということでございますので、最後に一言ご挨拶をさせていただきたいと思います。今回水道料金統一ということで、すでに広域化というものが決まっております、それが進んでいく中で、料金を統一するかということが私たちのこの審議会の題材的な使命であったように思います。その中で当初出てきた料金改定に比べるとだいぶ現実的な答申にはなったのではないかと思います。答申は数字だけではなく付帯意見も含めてということであったと思いますので、その付帯意見を含めて、最終的には構成首長との話し合いであったり、あるいは議会での議論を踏まえて、今回の料金改定になったのではないかと思います。もちろん料金改定がなければよいに越したことはないわけでございますけれども、施設の老朽化、特に我々の目に見えないのは配水管の老朽化ではないかと思います。これは相当なリスクをはらんでおりますので、今後の水道局の運営の中ではしっかりと老朽管の対応をしていただければという風に思っております。最終的にこのような答申にたどり着きましたのは、各委員の皆さまのご意見であったと思っております。感謝申し上げます。どうもありがとうございました。最後にご意見がありました、今回のものはあくまでも事業統一、広域化というものが決まっている中で、そして基本計画がある中で料金統一、これが主題だったと思いますが、今後につきましては一つの事業体になっていく中で、どういう風に持続可能な事業体になれるのか、これを検証してさらによい、住民にとってよい水道事業体になっていただきたいと</p>

事務局	<p>思います。2年間になります。1年間は空きましたけれども、皆さま大変お世話になりました。どうもありがとうございました。</p>
局長	<p>ありがとうございました。結びに水道局長より、委員の皆さまにお礼のご挨拶をさせていただきます。</p> <p>皆様、寒い中、また師走のお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございました。本年4月より水道局長を拝命いたしました。会長をはじめ、審議会委員の皆様のお力添えに深く感謝申し上げます。</p> <p>平成28年4月に事業統合以来の課題でございました、料金統一につきまして皆様にご審議いただき、昨年12月、審議会からの答申を頂戴した後、答申を基本としましておよそ1年間をかけ統一の方向性の検討、住民説明会などの手続きを進め、先月11月17日広域議会の承認を頂くことができました。この度の改定内容は、答申いただきました改定率には及ばないものの、今後の秩父地域の水道料金のあり方について、貴重な方向づけをいただいたものと考えております。また、今回の料金統一に伴う各市町からの繰入予定額につきましては、答申により必要とされた収入金額を基礎に算定してございます。</p> <p>大正13年、1924年に橋立浄水場が竣工して96年、それ以降、秩父地域の水道が、私たちの生活に当たり前に存在するようになり、およそ半世紀が経とうとしています。今や水道普及率99%を超えることになった、秩父地域の水道インフラを、いかに後世に引き継いでいくか、守って行くか、それが現在の水道局に課せられた課題であると考えております。安心、安全、安価な水道水を安定的に提供すること。また、行政としての説明責任を果たして行く所存でございますので、今後とも広域水道事業に、ご理解ご協力を賜りたいと存じます。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。</p>
事務局	<p>以上をもちまして、経営審議会を閉会とさせていただきます。1点事務局より連絡をさせていただきます。本日、会議録署名人でございます強谷隆彦委員と加藤芳男委員におかれましては、会議録がまとまり次第、順次郵送にて署名をお願いいたします。</p> <p>それでは、皆さまお疲れ様でございました。お帰りの際はどうぞお気を付けてお帰りください。</p>

会議の経過を記載してその相違ないことを証するためここに署名する。

令和3年1月7日

署名委員 強谷 隆彦

署名委員 加藤 芳男